ガーデニングサポーター養成講座

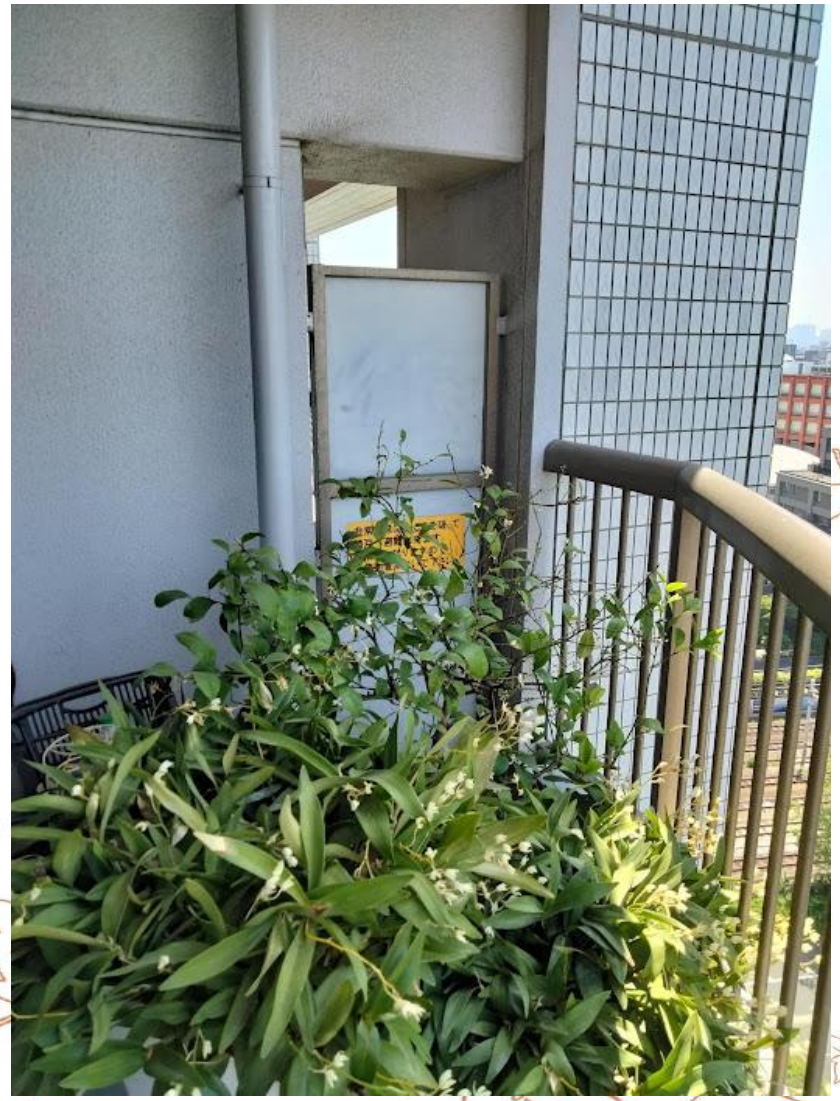
ベランダガーデニング入門　8月
洋ラン・堆肥作り

洋ランとは

ラン（蘭）は、世界で15000種以上あり、その多くが熱帯・亜熱帯の原産です。日本に古くからある、風蘭やエビネなどは、東洋ランと呼ばれて、園芸界で洋ランとは別扱いですが、植物分類上では全く同じ種類の植物です。
洋ランが我が国に輸入されたのは明治時代で、とんでもなく高価な贅沢品でした。今でもその名残は残っていて、胡蝶蘭などが贈答品として流通しております。
写真は胡蝶蘭（ファレノプシス）です。

寒さに強い洋ラン

洋ランは、一般に寒さには弱いのですが、このデンドロビウム・キンギアナムは、うまく慣らせば、通年屋外における程耐寒性があります。但し秋から春までのうち霜の降りるような季節では潅水を控える必要があります。また、着生蘭であるため、肥料はほとんど必要ありません。晩春から初夏まで、液肥2000倍くらいを毎週与えるだけで十分です。植え付け用土は、素焼き鉢に水苔植が標準ですが、通常の園芸用土でも大丈夫です。
同じデンドロビウムでも一般よく見るノビル系では全く異なりますのでご注意願います。



堆肥を作ろう

堆肥とは稲わらや落ち葉、家畜ふん尿、食品残渣などの有機物を、微生物の力を使って分解させ、成分的に安定化するまで腐熟させたものをいいます。堆肥を使わずに、化学肥料のみを土壌に施肥し続けると、土壌は「固く」なり、植物の根が十分に伸びることができず、水はけが悪くなります。また土壌中に十分な酸素が行き届かず植物の根が窒息状態になるだけでなく、微生物の働きも悪くなります。
堆肥を作るには嫌気性発酵法と好気性発酵法があり、それぞれに得失があります。
写真は、デンドロビウムノビルです。